

★メキシコで左派大統領が誕生へ 各メディアの報道

18.07.02 BBC 対立候補が敗北宣言

2018年07月2日

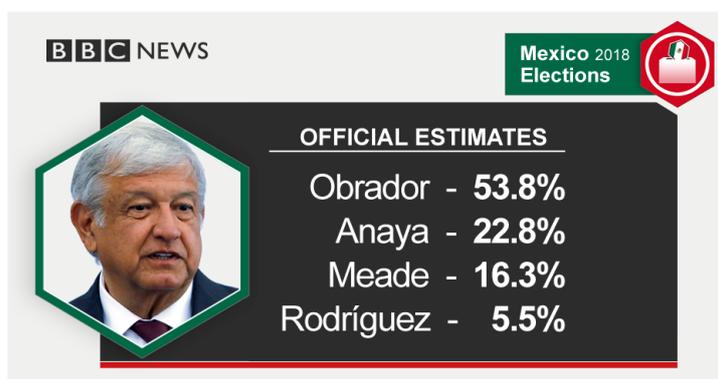
支持者に手を振るロペスオブラドール氏（1日、メキシコシティ） Image copyright Getty



支持者に手を振るロペスオブラドール氏（1日、メキシコシティ）

メキシコで1日に投開票された大統領選で、左派候補のアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏（64）が勝利することが確実な見通しとなった。選挙管理委員会によると、元メキシコシティ市長のロペスオブラドール氏の得票率は約53%となったもようで、次点となった候補の2倍以上だった。主要な対立候補たちも敗北を認め、名前の頭文字から「アムロ」の略称で知られるロペスオブラドール氏の勝利を祝福すると述べた。

開票の初期段階で3位となっている与党・制度的革命党（PRI）のホセ・アントニオ・ミード候補は支持者たちの前で、ロペスオブラドール氏が「大きな成功を収める」のを期待すると語った。PRIは過去100年間の大部分の期間でメキシコ政治を主導してきたが、人気は低下している。



選管当局によるロペスオブラドール氏（López Obrador）ら各候補の得票率

今回次点となる見通しの保守派・国民行動党（PAN）のリカルド・アナヤ候補は、ロペスオブラドール氏勝利のニュースを受け、「彼の勝利を認める。お祝いを述べたい。メキシコのため、彼が大きな成功を収められるよう願う」と語った。

ロペスオブラドール氏の反応

選挙後、初めて発言したロペスオブラドール氏は、汚職や免責の撲滅を新政権の最優先課題にすると語った。ロペスオブラドール氏はさらに、米国との「友好的かつ協力的な関係」を目指すと述べた。貿易や移民をめぐってメキシコを激しく批判するドナルド・トランプ氏が2016年の米大統領選で選出されて以来、米国とメキシコの関係はぎくしゃくしている。しかし、ロペスオブラドール氏の当選確実が伝わるとトランプ大統領はツイッターで、「メキシコの次期大統領になったアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏にお祝いを言いたい。彼と協力できるのをとても楽しみにしている。合衆国とメキシコ両方にメリットがあるたくさんの課題がある！」とコメントした。

Donald J. Trump

✓ @realDonaldTrump

Congratulations to Andres Manuel Lopez Obrador on becoming the next President of Mexico. I look very much forward to working with him. There is much to be done that will benefit both the United States and Mexico!

12:01 - 2018年7月2日

大統領選を含む総選挙の期間中には130人以上の候補・党員が殺害されており、過去数十年で最も多くの死者を出した選挙の一つとなった。



選挙の勝利を喜ぶ支持者たちに手を振るロペスオブラドール氏（1日、メキシコシティ）

何が争点だったのか

ロペスオブラドール氏は過去2回の大統領選で次点となっていたが、今回は、PRIとPANがメキシコの政治を主導してきた状況に幕を下ろさせるのに成功したもようだ。ロペスオブラドール氏は両党が同じ「権力のマフィア」の一部だと述べていた。メキシコの多くの有権者たちは、現職のエンリケ・ペニャニエト大統領率いるPRI政権に失望感を強めていた。特に景気低迷や汚職の蔓延（まんえん）に不満を募らせていた。ロペスオブラドール氏は汚職撲滅を選挙公約の柱に掲げていた。横行する制度乱用の根絶で賃金や年金を改善させると約束した。対立候補たちは、ロペスオブラドール氏が大衆迎合主義者（ポピュリスト）で経済の舵取りは任せられない候補だと有権者に印象付けようとした。

投票日当日の様子

投票日には、投票所となった学校やコミュニティーセンターで有権者の長い列ができた。報道では党员 2 人がさらに殺害されたという。西部ミチョアカン州で労働党の党员 1 人が死亡したほか、中部プエブラ州で PRI の党员 1 人が死亡した。



写真左からロペスオブラドール氏、PRI のホセ・アントニオ・ミード候補、PAN のリカルド・アナヤ候補

有権者数は約 8800 万人で、大統領のほか、上院議員 128 人、下院 500 人がそれぞれ改選され、州など自治体レベルの選挙も今回実施された。暫定的な投票率は 60% 強だった。メキシコシティのトラルパン地区にある投票所では、ロペスオブラドール氏が投票する様子を見ようと大勢の人が集まった。ロペスオブラドール氏は今回の選挙を「歴史的」だとし、記者らに「我々は本当の変革の可能性を代表している」と語った。

対米関係への影響はあるのか

候補者たちの中で最もトランプ大統領に批判的な立場を取ってきたロペスオブラドール氏は、トランプ氏に「分別をつけさせる」と述べていた。トランプ大統領は、貿易や移民をめぐってメキシコを激しく批判してきた。北米自由貿易協定 (NAFTA) の再交渉やメキシコとの国境に壁を建設すると表明してきた。

米国に不法入国した疑いのある家族の子供を保護者から引き離すなど、トランプ氏の移民に対する強硬な姿勢は、各方面から激しい批判の声が上がった。トランプ氏はその後、移民家族をめぐる政策を撤回したが、現在も約 2000 人の子供が両親と引き離された状態にある。

★メキシコの政治地図を塗り替えた選挙

ウィル・グラント記者 BBC ニュース (メキシコシティ)

ロペスオブラドール氏の主な対立候補だった 2 人は、早い段階で敗北をはっきり認めた。与党 PRI にとってはつらい夜となったが、元経済相のホセ・アントニオ・ミード候補は、投票が締め切られた後、最初に敗北を認めた。さらに注目されたのが、続いてもう一人の対立候補、PAN のリカルド・アナヤ氏もロペスオブラドール氏が勝利したと認めたことだ。

公式な結果が出るまでロペスオブラドール氏がどの程度の差をつけて勝利したのかは確認できないが、今夜はロペスオブラドール氏や支持者にとって、同氏が大統領選に初めて立候補した 2006 年から待ち焦がれた瞬間だった。3 回目の挑戦でロペスオブラドール氏はとうとう勝利を手にし、かつ、それによってメキシコの政治地図を塗り替えた。

Presentational grey line

(英語記事 Mexico election: López Obrador wins presidency as rivals concede)

18.07.03 朝日

メキシコ政権交代へ 大統領選、新興左派候補が当選確実
メキシコ市＝岡田玄

2018年7月2日 15時37分



メキシコ市で1日、投票後に親指を突き出すアンドレスマヌエル・ロペスオブラドール元メキシコ市長＝ロイター

メキシコで1日、ペニャニエト大統領の任期満了に伴う大統領選挙の投開票があり、野党の新興左派政党「国家再生運動」のアンドレスマヌエル・ロペスオブラドール元メキシコ市長（64）の当選が確実になった。既成政党から新興左派への政権交代だ。12月1日に就任する。任期は6年。

開票作業は終了していないが、地元紙などの出口調査では同氏が他の候補に20ポイント近い差を付けており、ロペスオブラドール氏が1日深夜、勝利宣言をした。出口調査によると、大統領選と同時に行われた上下院選でも、ロペスオブラドール氏の「国家再生運動」系の候補が過半数を制する可能性が高い。ロペスオブラドール氏は、農業などの国内産業の保護などを訴えており、トランプ米大統領が見直しを求めている北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉などに影響を与える可能性がある。

ロペスオブラドール氏はかつてNAFTAからの脱退を主張。今回の選挙戦では「容認」

に立場を変えたものの「メキシコに不利な貿易を強いるNAFTA再交渉は次期政権が担うべきだ」と述べていた。このため、現政権が進行中のNAFTA再交渉をまとめても、「国家再生運動」系が多数を占めるとみられる議会が承認しない公算が大きい。再交渉は大統領就任後の12月以降に持ち越されるとみられる。また、トランプ氏がメキシコ人ら中南米移民を侮辱する発言を繰り返している問題について、ロペスオブラドール氏は現在のペニャニエト政権の対応は弱腰だと批判。「メキシコの主権を尊重した対等な関係を米国に求める」と訴えており、トランプ米政権の対応が注目されている。

メキシコでは長年、治安や汚職、貧困などが課題となってきた。ロペスオブラドール氏は、こうした問題を解決できなかった既存政党を批判。特に汚職に関わる政治の浄化を訴えた。現政権が進めたエネルギー産業への外国資本導入などの構造改革にも反対した。すでに行われた石油売却の契約についても、汚職の可能性を指摘し、見直しを約束している。(メキシコ市=岡田玄)

18.07.03 産経

勝利宣言のロペスオブラドール氏、ばらまき政策ずらり…舵取り不透明

ロペスオブラドール氏の 主な政策	NAFTA再交渉	決裂も視野に対応
	米国への移民流出	農業活性化で土地離れ防止
	汚職・麻薬組織対策	反汚職システム強化。担当省庁や新治安部隊の創設
	エネルギー分野の構造改革	民間参入について国民投票実施
	国民生活	増税なし、年金倍増、最低賃金アップ

【ロサンゼルス=住井亨介】「米国とは友好と協力関係を築きたい」。国境に建設する「壁」の費用負担や、不法入国者流入などでメキシコ批判を強めるトランプ米政権に対して「力や壁では問題は解決されない」と反発してきたロペスオブラドール元メキシコ市長(64)は、大統領選の勝利宣言ではそれまでの強硬姿勢を一転して封印。対話ムードを演出した。

強硬？対話？

選挙期間中は「トランプ効果」で高まったナショナリズムを背負い、米国、カナダとの北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉では「まず維持されるよう提案する。だが維持が不可能だからといって、メキシコにとってマイナスとは限らない」と一歩も引かない構えを示してきた。

NAFTA再交渉の首席交渉官に起用されるとみられるヘスス・セアデ元世界貿易機関(WTO)副事務局長は、貿易交渉の経験が豊富で、アジア人脈にも強みを持つ人物。米国との交渉が決裂した場合、アジア各国と自由貿易協定(FTA)を拡大することを視野に入れた人選とされ、強硬一本やりではない老獪(ろうかい)ぶりが垣間見える。

一方、移民問題では「移民をさせない国づくりをする」と勝利宣言でも触れたように、「移民を生まない」ことが基本。農産物の最低価格保証といった農業活性化で農民の土地離れを防ぐのをメインに据える。国内問題としてとらえており、トランプ氏と議論がかみ合わない恐れもある。

メキシコ統計院のデータ(2016年)によると、輸出合計金額のうち約81%が米国向けで、対米依存度を急に下げるのは現実的には難しい。「米国は存在が大きすぎる隣国。結局対等な関係を目指すことに落ち着くだろう」(現地外交筋)とみられる。

18.07.03 AFP

選挙日のメキシコ、新たに党員2人殺害 政界関係者の死者145人に

2018年7月2日 12:45 発信地:メキシコ市/メキシコ [メキシコ, 中南米]

選挙日のメキシコ、新たに党員2人殺害 政界関係者の死者145人に

メキシコ西部ミチョアカン州タンウアトの幹線道路をパトロールする兵士(2015年5月23日撮影)。(c)AFP PHOTO / HECTOR GUERRERO

メキシコ西部ミチョアカン州タンウアトの幹線道路をパトロールする兵士(2015年5月23日撮影)。(c)AFP PHOTO / HECTOR GUERRERO

メキシコの首都メキシコ市中心部のソカロ広場で、選挙結果の暫定開票結果を知り喜ぶ大統領選の左派候補、アンドレス・ロペスオブラドル元メキシコ市長の支持者ら(2018年7月1日撮影)。(c)AFP PHOTO / RONALDO SCHEMIDT

【7月2日 AFP】メキシコで大統領選や連邦議会選などの選挙が一斉に実施された1日、新たに政党员2人が殺害された。コンサルティング企業のまとめによると、今回の選挙期間中に殺害された政界関係者は合計で145人に達した。

中西部ミチョアカン(Michoacan)州コンテペク(Contepec)の警察当局によると、同日朝、労働党(PT)の党員フローラ・レセンディス・ゴンザレス(Flora Resendiz Gonzalez)

氏が自宅で銃撃を受け死亡した。中部プエブラ（Puebla）州でも同日、与党・制度的革命党（PRI）のフェルナンド・エレラ・シルバ（Fernando Herrera Silva）氏が銃で撃たれて死亡した。PRIは声明で州に今回の選挙の安全を保障するよう求めた。メキシコでは選挙期間中、毎日のように政治絡みの殺人が発生し、コンサルティング会社エテレクト（Etellekt）によると、昨年9月以降に政界関係者少なくとも145人が殺害されている。

今回の選挙はメキシコ史上、最も暴力にまみれた選挙となった。(c)AFP

18.07.03 東京新聞

メキシコ大統領 左派圧勝 汚職根絶や治安対策 強調

2018年7月3日 朝刊

メキシコで一日、ペニャニエト大統領の任期満了に伴う大統領選が投開票され、野党の新興左派政党「国家再生運動」のアンドレス・ロペスオブラドル元メキシコ市長（64）が当選を確実にした。汚職や貧困、麻薬絡みの暴力がまん延する中、既成政党への国民の失望感が左派政権を誕生させた。（ニューヨーク・赤川肇）

四人が立候補。選管当局の中間まとめでは、ロペスオブラドル氏の得票率は53%台に達し、野党・国民行動党のアナヤ前党首（39）の22%、与党・制度的革命党のミード前財務公債相（49）の16%を圧倒した。ロイター通信によると、ロペスオブラドル氏は勝利演説し、「汚職を根絶するのが新政権の使命だ」などと語った

メキシコでは、政府が麻薬組織の取り締まりを強化する中、組織間の利権争いが激化、暴力や汚職が深刻化している。内務省によると、昨年の殺人事件は過去最多の二万五千件、犠牲者は二万九千人を超えた。ロペスオブラドル氏は選挙戦で、治安対策と貧困対策の重要性を強調。汚職撲滅や公務員の賃金抑制で浮かせた資金を福祉や奨学金の拡充に回すと訴えたが、国内ではポピュリズム（大衆迎合）的な主張との指摘もある。

外交面では、メキシコ国境から米国に入る不法移民についてメキシコ政府の責任を問うトランプ米大統領を「無責任で弱い者いじめだ」と批判。一方で、隣国として「良好な互恵関係を目指す」と現実主義的な立場も示唆しており、対米姿勢は定まっていない。トランプ氏は一日夜、ロペスオブラドル氏の当選確実が報じられると、ツイッターで「一緒に働くのを楽しみにしている。両国のためにすべきことは数多い！」と祝意を表した。

新大統領任期は十二月から六年。再選は禁止。

18.07.03 東京

内向き「メキシコのトランプ」 NAFTA交渉 影響は

2018年7月3日 朝刊

【ワシントン＝白石亘】新興左派政党のロペスオブラドール氏がメキシコ大統領選に勝利し、難航する北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉への影響が懸念されている。「メキシコのトランプ」とも呼ばれ、内向き志向が強いとされる同氏が、米国に強硬姿勢で臨むとの指摘もある。

ロペスオブラドール氏は「NAFTAのメリットはメキシコ全体では共有されていない」と主張。貧困層の多いメキシコ南部を支持基盤とする同氏は、農業生産物の自給率向上を目指しており、農業分野で厳しい交渉になる可能性がある。また米紙ウォールストリート・ジャーナルによると、ロペスオブラドール氏はメキシコ労働者の賃金引き上げを要求。メキシコに進出した外国企業にすれば、人件費の安さというメキシコ最大の魅力が失われかねず、新大統領の通商政策を見守っている状況だ。

18.07.03 AFP 時事

メキシコ次期大統領、トランプ氏と初の電話会談 「素晴らしい」滑り出し
7/3(火) 11:02 配信



AFP＝時事

メキシコ次期大統領、トランプ氏と初の電話会談 「素晴らしい」滑り出し

メキシコの首都メキシコ市で、大統領選で勝利を確実にし、支持者らを前に演説するアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール元メキシコ市長（2018年7月1日撮影）。【翻訳編集】

AFPBB News

【AFP=時事】ドナルド・トランプ（Donald Trump）米大統領とメキシコの次期大統領に決まったアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール（Andres Manuel Lopez Obrador）氏は2日、初めて電話会談を行った。ロペスオブラドール氏はメキシコ移民の米国流入削減に協力すると申し出たという。

1日に投開票の大統領選で、メキシコ政界の既成主流派とは一線を画する対米強硬左派のロペスオブラドール氏が圧勝したことから、米国との関係に懸念が持ち上がっていた。

大統領選は反貿易主義や反移民を掲げるトランプ氏にメキシコ国民が怒りを募らせていた時期と重なり、「アムロ（AMLO）」の愛称で知られるロペスオブラドール氏もトランプ氏に「身の程を思い知らせてやる」と発言するなど対米強硬路線をあらわにしていた。

しかしロペスオブラドール氏の大統領選勝利を受けて行われた同氏とトランプ氏との初の電話会談で、両者は馬が合ったようだ。

ロペスオブラドール氏は次期大統領に決まってから数回目となるツイッター（Twitter）への投稿で、トランプ氏から電話があり30分ほど会談したことを明らかにした。会談でロペスオブラドール氏は、移民削減と治安強化につながるメキシコ国内での雇用創出のための開発計画をトランプ氏に提案し、今後米・メキシコの実務者間で協議していくという。また電話会談の雰囲気は敬意のある丁寧なものだったという。

トランプ氏も、ホワイトハウス（White House）の大統領執務室（Oval Office）で記者団に対し、ロペスオブラドール氏との電話会談に触れ「われわれは非常に良い関係を築いていけるだろう、素晴らしい会談だった」と述べ、「ロペスオブラドール氏は国境問題でもわれわれに協力してくれると思う」と付け加えた。【翻訳編集】 AFPBB News

18.07.03 時事

左派色」薄め、現実路線＝日系企業に安心感－メキシコ大統領選

2018年07月02日16時53分.

【メキシコ市時事】日本の対中南米投資先トップのメキシコに、左派のロペスオブラドール政権が誕生する。ただし、左派とはいっても市場経済は否定せず、現行の経済路線を継承する姿勢を強調。当初は不安を訴えた日系企業関係者からは安堵（あんど）の声が聞こえてくる。＜下へ続く＞

選挙前には「メキシコに石油を取り戻す」として、現政権が解禁した石油鉱区への外資参入撤回や、新空港建設事業の中止などを主張してビジネス界を震え上がらせた。

しかし、支持率トップを走り、大統領の座が見えてくると急進的主張は鳴りを潜めた。鉱区については契約に不正がなかったかについての検証にとどめ、空港問題はトーンダウン。勝利演説では「中央銀行の独立と財政規律を尊重する。国内外の企業、銀行との約束は守る」と不安の払拭（ふっしょく）に努めた。

1180社に上る日系企業を安心させたのは、再交渉が進む北米自由貿易協定（NAFTA）への姿勢だ。進出企業は米国輸出向けの製造業者が大部分を占めるだけに、かつては批判的だった同氏の「NAFTAはあって良かった。交渉は継続する」との言葉に加え、通商交渉経験が豊かなベテランを交渉担当に起用すると表明したことが、力強いメッセージとなった。

精密機器メーカー営業責任者を務める細谷資通氏は「現地従業員の保護は強化されるだろうが、大きな影響はないだろう。社会主義者というよりも政治家。現実路線を取るはず」。日本貿易振興機構（JETRO）の峯村直志メキシコ事務所長は「政策財源についてはあいまいさもあるが、まともなことを言っている。経済閣僚もスペシャリストを配置するようで、今のところ不安材料はない」と分析している。

18.07.03 時事

メキシコ大統領選、左派圧勝＝「汚職撲滅が使命」－ロペスオブラドール氏

2018年7月2日 17:22 発信地：メキシコ [例外, その他]

【7月2日 時事通信社】ペニャニエト・メキシコ大統領の任期（6年）満了に伴う大統領選は1日行われ、新興左派政党「国家再生運動（MORENA）」のアンドレス・ロペスオブラドール元メキシコ市長（64）が圧勝した。就任は12月1日で、再選は禁じられている。

中央選管に当たる全国選挙機関（INE）がサンプルを基に発表した速報値によると、ロペスオブラドール氏の得票率は53.0～53.8%の見込み。2番手につけた中道右派・国民行動党のリカルド・アナヤ元下院議長（39）の22.1～22.8%を大きく引き離れた。

ロペスオブラドール氏は勝利演説で「**社会的格差や経済格差、暴力拡大の根源は汚職だと確信している。汚職を見逃さずに撲滅するのが新政権の主な使命だ**」と強調した。

また、「**中央銀行の独立と財政規律を尊重する。国内外の企業、銀行との約束は守る**」と述べ、バラマキや反市場経済的政策への懸念を打ち消した。

トランプ政権誕生以降、ぎくしゃくしている対米関係については「友好と発展のための協力を目指す。相互に尊重し、米国に住んで働く同胞を保護する」と指摘した。(c)時事通信社

18.07.23 AFP

メキシコ首都、初の女性市長を選出 物理学博士のシェインバウム氏

2018年7月2日 11:56 発信地：メキシコ市/メキシコ [メキシコ, 中南米]
中南米]



メキシコ首都、初の女性市長を選出 物理学博士のシェインバウム氏

メキシコ首都メキシコ市で行われた総選挙で投票したあと親指を立てるジェスチャーを見せるクラウディア・シェインバウム氏 (2018年7月1日撮影)。(c)AFP PHOTO/Bernardo Montoya

【7月2日 AFP】1日投開票のメキシコ総選挙で、首都メキシコ市の新市長に、地元政治家で科学者のクラウディア・シェインバウム (Claudia Sheinbaum) 氏 (56) が女性として初めて選出されたことが出口調査で明らかになった。

地元調査会社ミトフスキー (Mitofsky) の試算によると、シェインバウム氏は得票率 47.5 ~55.5%で勝利するもよう。

メキシコ市政を率いた女性政治家としては、1999~2000年に臨時市長を務めたロザリオ・ロブルズ氏がいるが、選挙で女性が市長に選出されたのはシェインバウム氏が初めて。

物理学の博士号を持つシェインバウム氏の当選の背景には、反既成政党を訴えて支持を拡大してきた左派の大統領候補、アンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール (Andres Manuel Lopez Obrador) 元メキシコ市市長の高い人気がある。出口調査によれば、対米強硬派のロペスオブラドール氏は大統領選での勝利をほぼ確実にしている。

シェインバウム氏は左派の既成政党・革命民主党 (PRD) を早い段階で離党し、ロペスオブラドール氏が 2014年に立ち上げた「国家再生運動 (Morena)」に参加した政治家の一人。2015年にメキシコ市トラルパン (Tlalpan) 区の区長に選出され、これを足掛かりに人口 900万人超の北中米最大都市の市長就任を目指して選挙戦を展開してきた。(c)AFP

18.07.03 ロイター

EXCLUSIVE・メキシコ次期大統領、年金改革実施目指す＝次期財務相候補

〔メキシコ市 2日 ロイター〕 - 1日投開票のメキシコ大統領選挙で勝利を収めたアンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏は、年金改革を押し進め、堅実な経済政策運営の追求に向け財政委員会を設立する議会の方針を支持する。同氏の側近のカルロス・ウルスア氏が2日、ロイターに対し明らかにした。

ウルスア氏はロペスオブラドール氏が12月に就任する際、財務相に指名されると見られている。

ウルスア氏は、ロペスオブラドール氏は6年の任期中の年金改革実施を目指していると述べた。

18.07.02 日経

メキシコ次期大統領、アンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏

新党を結成、3回目の挑戦実る

中南米 2018/7/2 17:29 日本経済新聞 電子版

3回目の挑戦で大統領の座を射止めた。「今回は最後（の出馬）」と話し、ほかの候補が訪れないような小さな村まで各地をくまなく回った。2006年、12年の大統領選で落選した後、国家再生運動という新党を結成し、既存政党を「国民の期待にこたえていない」と批判した。クリーンなイメージを武器に汚職や治安悪化、貧困に苦しむ有権者の心をつかんだ。

開発の遅れるメキシコ南東部、タバスコ州の出身。決して豊かでない家庭に育ち、奨学金を得て首都メキシコシティのメキシコ国立自治大で政治学を学んだ。在学中に教授の選挙活動を手伝った縁で、現与党の制度的革命党（PRI）に入り、政治の道を歩み始めた。

卒業後は故郷にある原住民の支援センターに勤務。伝統的な農業の復活を支援したり、病院や学校を建設したりした。その後、メキシコシティで消費者教育の普及活動に取り組んだ。

そのうち、政権交代が長い間なく事実上の独裁体制を敷いていた制度的革命党に幻滅するようになり、中道左派、革命民主党（PRD）の結党に参加。タバスコ州の州知事選に出馬した。これは失敗したが、革命民主党のなかで頭角を現し、2000年、メキシコシティ市長に当選した。

市長として市民の政治参加を呼び掛け、市民参加の諮問機関の設置などを進めた。高齢者や障害者の支援プログラムを整備するほか、道路建設を進め、実績を積んだ。

少年時代に熱中した野球をいまでも愛する。亡くなった前妻との間に3人、現在の妻との間に1人の子供がいる。(メキシコシティ=丸山修一、写真はロイター)

18.07.02 日経

メキシコ経済界、新政権への注文相次ぐ

中南米 2018/7/2 16:13

【メキシコシティ=外山尚之】メキシコで1日に実施された大統領選で左派のロペスオブラドール氏(64)の勝利が確実になったことを受け、同国の主要経済団体から経済政策への注文が相次いだ。選挙戦では大衆迎合的な政策を掲げることが多かったため、経済界との溝は深い。今後、両者がどのような距離感をとるかがメキシコ経済にも影響を与えそうだ。

メキシコの有力経済団体、企業家調整評議会(CCE)のファン・パブロ・カスタニョン会長は1日夜にメキシコシティで記者会見を開き、ロペスオブラドール氏に祝意を表明。「ともに働くことでしかメキシコをより良い未来へと動かすことはできない」と述べ、経済界への歩み寄りを求めた。

企業経営者らで構成するメキシコ経営者連盟(COPARMEX)のグスタボ・デオジョス会長はロペスオブラドール氏が主張する汚職対策について、企業側からも協力すると発言。一方、「我々は国の競争力を高めるための構造改革を守る」と述べ、労働やエネルギー分野などで急進的な政策を導入しないようくぎを刺した。

ロペスオブラドール氏は年金支給額の引き上げなどバラマキ的な政策を掲げる一方、石油市場の民間開放に反対するなど、左派色が強い政策を掲げて選挙戦を戦った。親企業的な現政権からの大幅な政策転換の可能性があると見て、企業からの警戒感は強い。

18.07.03 毎日

大統領にロペスオブラドール氏 初の左派政権

毎日新聞 2018年7月2日 14時31分(最終更新 7月2日 23時49分)



ロペスオブラドール氏＝A P

【メキシコ市・山本太一】任期満了に伴うメキシコ大統領選の投開票が1日にあり、野党・左派「国家再生運動 (M o r e n a)」の元メキシコ市長、ロペスオブラドール氏 (64) が当選した。メキシコ史上初の左派政権が誕生する。移民や貿易問題で難題を突き付けるトランプ米政権に強硬姿勢をみせてきたロペスオブラドール氏だが、勝利演説では米国との関係改善を目指す考えを示した。12月1日に就任し、任期は6年。

一方、ロペスオブラドール氏は従来、米国、カナダとの北米自由貿易協定 (N A F T A) の再交渉は自身の政権が担うと主張。「再交渉で協力を強める必要があると認識できた場合のみ、加盟国であり続ける」と条件次第で離脱も示唆しており、交渉は長期化しそうだ。

「米国第一主義」を掲げるトランプ大統領に対抗し、「メキシコ第一主義」を主張してきたロペスオブラドール氏は演説で、内政不干涉や民族自決の原則を強調した上で「米国との親密な関係を模索する」と発言。トランプ氏もツイートで「一緒に働くことがとても楽しみ。米国とメキシコの双方が利益を得るため、多くのことがなされなければならない！」と祝意を示した。

両首脳の間後の関係構築に注目が集まる中、サンパウロ大 (ブラジル) のアドリアン・グルサ・ラバジェ教授 (政治学) は「ロペスオブラドール氏は昔からナショナリストの立場を貫いており、(移民問題などを巡り) トランプ氏の政策に過剰に反応する可能性は残る」と指摘する。

メキシコには中南米諸国の中で最も多くの日系企業が進出。日系企業には左派政権の誕生を不安視する声もあったが、ロペスオブラドール氏は演説で「企業の自由は保証される」と語るなど、不安の払拭 (ふっしょく) に努めた。

メキシコで汚職と犯罪が深刻化する中、ロペスオブラドール氏は効果的な対策を取れない既成政党を批判し「新たな選択肢」として支持を広げた。演説では「汚職と犯罪の不処罰を根絶することが自分の政権の主要な課題」と述べ、政治家の資産公開の義務化など、公約を

進める考えを示した。

選管当局が発表した暫定結果（開票率53.98%）によると、ロペスオブラドール氏の得票率は53.61%。野党・中道右派「国民行動党（PAN）」のアナヤ前党首（39）は22.63%台、与党・中道右派「制度的革命党（PRI）」のミード前財務公債相（49）は15.49%。

18.07.03 毎日

アンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏＝メキシコ大統領選で当選した
毎日新聞 2018年7月3日 東京朝刊

率直な物言いで人気 アンドレス・マヌエル・ロペスオブラドール氏（64）

勝利演説で真っ先に国民に「和解」を呼びかけた。既成政党の政治家や企業家など富裕エリート層を「権力のマフィア」と非難し「国内の分断を深めた」との批判があるからだ。

南部タバスコ州の出身。1970年代に中道右派与党・制度的革命党（PRI）に入党、政治活動を始めた。88年に離党して中道左派・革命民主党（PRD）の創設に参加した。2000～05年にメキシコ市長を務めた後、2度の大統領選に挑戦。しかし、いずれも次点に終わった。14年に左派政党・国家再生運動（Morena）を設立し、3度目の大統領選で雪辱を果たした。

長い政治活動の中でスキャンダルに見舞われたことがなく、クリーンなイメージが強みだ。トランプ米大統領の言いなりにならないとの意味を込め「外国政府のピニャータ（くす玉人形）にはならない」と発言。率直な物言いで人気を集める。

反対派は、南米ベネズエラで政治・経済の混乱を招いた反米左派のチャベス前大統領（故人）、後継のマドゥロ大統領と同一視して「メキシコがベネズエラのような国になる」と訴えてきた。だが、本人は「市民の自由を尊重し、独裁主義に走らない」と民主主義重視の姿勢を強調。中央銀行の独立や財政規律の維持にもあえて言及し、経済界の不安払拭（ふっしょく）に努めた。

貧困層に手厚い社会保障政策が大衆迎合的とされ「ポピュリスト」と見られている。勝利後さっそく支持者に「政権発足初日から年金支給額を倍にする」とぶち上げた。「抜本的な変革」を目指す、実施が困難だったり、具体性に欠けたりする公約も多く、政策の実現力が問われる。

フルネームの四つの頭文字から「AMLO」（アムロ）が愛称。先妻を病気で亡くし、06年に再婚。計4人の子供がいる。【メキシコ市・山本太一】

18.07.03 読売

メキシコに左派政権、ロペスオブラドール氏当確

2018年07月02日 14時05分

1日、メキシコ大統領への当選が確実になると報じられ、支持者に手を振るロペスオブラドール氏（AFP時事）

1日、メキシコ大統領への当選が確実になると報じられ、支持者に手を振るロペスオブラドール氏（AFP時事）

【メキシコ市＝田原徳容】メキシコ大統領選は1日夜、投票が終了し、開票作業が行われた。AP通信は、出口調査結果と、主要候補2人が開票結果の中間発表前に敗北を認めたことを受け、新興左派政党「国家再生運動（MORENA）」を率いる元メキシコ市長、アンドレス・ロペスオブラドール氏（64）の当選が確実になると報じた。メキシコで初めて左派政権が誕生することになる。

ロペスオブラドール氏はメキシコ市で勝利宣言し、「メキシコ人への融和と個人、企業の自由を尊重する」と述べた。国家選挙機関が1日午後11時（日本時間2日午後1時）に発表した中間集計結果によると、ロペスオブラドール氏は得票率約53%でトップに立った。

（ここまで303文字 / 残り360文字）

2018年07月02日 14時05分 Copyright © The Yomiuri Shimbun

18.06.26 毎日

メキシコ大統領選

対米強硬派候補が優勢 7月実施

【ワシントン山本太一】メキシコのペニャニエト大統領の任期満了に伴う大統領選が7月1日、実施される。複数の世論調査によると、汚職や治安を抑止できない与党への不満の受け皿になっている左派の元メキシコ市長、ロペスオブラドール氏（64）が優勢だ。隣国の米トランプ政権に強硬的な姿勢を示しており、当選すれば両国関係が冷え込む可能性がある。

2006年、12年の大統領選でロペスオブラドール氏は、いずれも小差で次点だった。14年に左派政党「国家再生運動 (M o r e n a)」を結党し、3度目の大統領選に挑戦している。

ロペスオブラドール氏が優位に選挙戦を進める背景には既成政党への不信感がある。与党・中道右派「制度的革命党 (P R I)」は、ペニャニエト氏が夫人宅購入に絡み建設会社から賄賂を受け取った疑惑が浮上し、逆風に。P R Iの幹部や所属州知事も汚職で逮捕が相次ぐ。政府と麻薬カルテルとの「麻薬戦争」が激化し、17年の殺人件数は約2万5000件で1997年以降の統計で最悪だった。今年1～3月も約8000件で前年同期比で2割増加。治安対策でも現政権は国民の支持を得られていない。

P R Iが下野した00～12年に政権を握った中道右派「国民行動党 (P A N)」に対しても「既成政党は機能不全に陥っている」との批判が渦巻く。

ロペスオブラドール氏は公約として、公共事業に絡む汚職や無駄な支出を調べ、浮いた財源を年金支給や最低賃金の増額に充てると主張。「一部の層の既得権をなくす」として大統領の給与も減額する方針で、国民の4割を占める貧困層を中心に支持を広げる。軍主導による治安対策を見直し、司令塔となる「公共治安省」の創設を主張している。

また、メキシコ人に対し侮辱的な発言を繰り返すトランプ米大統領について、ロペスオブラドール氏は「無礼な態度をやめなければ、思い知らせてやる」などと激しい言葉で応じていることも人気拡大につながっている。輸出の8割を占める米国への経済依存を減らすとも主張し、当選すれば対米関係がさらに悪化する恐れがある。

地元調査会社が24日発表した世論調査結果によると、支持率はロペスオブラドール氏が37.7%、P A Nのアナヤ前党首(39)が20%、P R Iのミード前財務公債相(49)が17.7%。新大統領は12月に就任する。任期は6年。

(以上)